

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立港南造形高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	1 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 2 学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上
計画名	美術教育最先端“港南造形の ICT 飛躍的改造”計画 “Konan drastic innovation”

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成</p> <p>（1）造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。</p> <p>ア 1年次より、全員がタブレット端末(BYOD)のポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ（全 HR 教室）と連動させることで、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を飛躍的に向上させる。「学習動画」を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、苦手教科（数学・理科）の克服を図る。</p> <p>イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業や ICT を活用した授業の拡充を図る。</p> <p>ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。</p>
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「ICT を活用した授業改善」により、学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答（平成 29 年度 78%、平成 30 年度 84%、令和元年度 80%）を、令和 4 年度には 90%に近づける。 ・「発信力」の育成について、卒業時にはすべての生徒が ICT 機器を活用して、プレゼンテーションができる力を身につけ、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。今回、普通教室（15 室）への短焦点プロジェクターを設置することにより、生徒が所有する Android タブレット端末の活用を促進する。
整備した 設備・物品	電子黒板機能付き超単焦点プロジェクター 9セット
取組みの 主担・実施者	<p>主担者：ICT 活用授業改善チーム</p> <p>実施者：全教員の 8 割程度を予定（最終的には全教員）</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターの設置が令和 3 年 2 月中旬となり授業での活用はできていない。
成果の検証方法 と評価指標	<p>1 「スタディーサポート」の学力・学習バランス（総合）タイプ③（学力◎学習◎）を現状の 50%を 60%になるようにする。特に「数学」の GTZ「D1」を「C3」に向上させる。</p>

	<p>2 学校教育自己診断：「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」「授業に、興味・関心を持つことができている」（R1年度平均 84%）を 90%に近づける。</p>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・活用できていないため、検証できない。 ・来年度に向けて、機器利用の試行を進め、使用方法等について研修等を進める予定である。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒所有のタブレット端末 (BYOD)、府貸与の Chromebook と、電子黒板機能付き超単焦点プロジェクターとを連動させることで、今年度教育センターの「パッケージ研修」と連携して全ての教科で進めてきた授業での ICT 活用をさらに進めていく。 数学では、関数の定義域等の理解に、生徒自身が ICT を操作して視覚的に問題を把握したり、解決に至る見通しをもったり、シミュレーションしたりしながら、数学的な見方や考え方を深化させ、思考力・判断力・表現力を育成していく。 美術では、主観的な見方や感じ方を大切にしているが、他者の感じ方を意識することも表現活動では重要であるので、ICT 機器を活用し、客観的に作品を見ることから新たな気づきにつなげていく。 ・プロジェクターを効果的に活用し、初年度の目標を達成していく。

3. 事業費報告

今年度事業費総額	2,563,440	円
----------	-----------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額	
	1 報償費		1				
			2				
			3				
							小計
	2 旅費		1				
			2				
			3				
							小計
	3 消耗需用費		1				
		2					
		3					
					小計	0	
4 維持需用費		1					
		2					
		3					
						小計	0
5 役務費		1					
		2					
		3					
						小計	0
6 委託料		1					
		2					
		3					
						小計	0
7 使用料 及び賃借料		1					
		2					
		3					
						小計	0
8 備品購入費		1	電子黒板機能付き超単焦点プロジェクト	¥284,827	9	¥2,563,440	
		2					
		3					
						小計	¥2,563,440
9 工事請負費		1					
		2					
		3					
						小計	0
10 負担金・補助 及び交付金		1					
		2					
		3					
						小計	0
					合計	¥2,563,440	